



# トラフグ

主な漁業と漁期等

## 伊勢・三河湾系群

はえ縄: 10月～翌年2月  
漁獲対象: 1歳魚以上

### 生態

#### ●分布・回遊

静岡県で漁獲されるトラフグは、伊勢・三河湾系群に属します。この系群は、紀伊半島東岸から駿河湾沿岸域を主な生息域とし、標識放流の結果等から、他の海域の資源とは独立した一つの系群と考えられています。

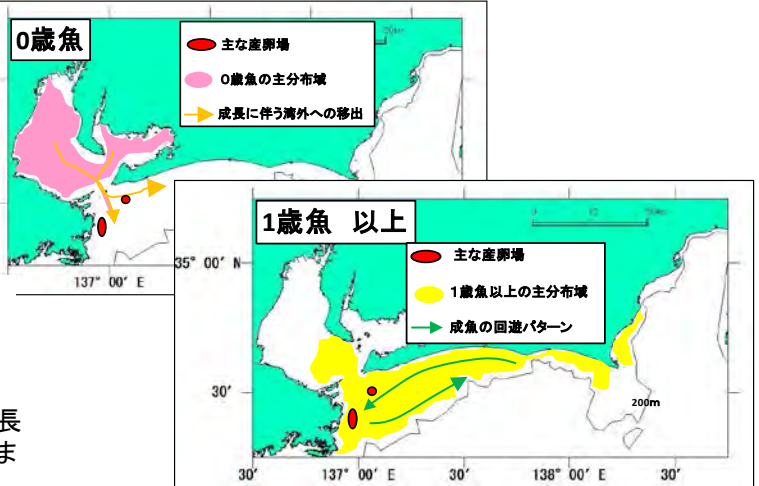
#### ●年齢・成長

成長は早く、1歳で全長26cm、体重0.4kg、2歳で全長40cm、体重1.4kg、3歳で全長48cm、体重2.9kgに達します。寿命は10年以上と考えられています。

#### ●産卵期・産卵場

産卵期は4～5月とみられ、成熟年齢は雄で2歳、雌で3歳です。

産卵場は、底質の粒径が2mm以上の礫混じりの粗砂を選択的に利用しており、このような条件を備えた産卵場として、三重県安乗沖及び愛知県渥美外海(通称:出山)周辺水域が知られています。



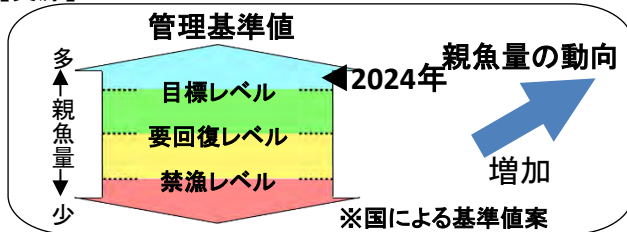
トラフグ伊勢・三河湾系群の分布・回遊 模式図

#### ●生息場所・食性

ふ化仔魚は潮流により伊勢・三河湾内に運ばれ、干潟域や河口域で全長6cm前後まで成長します。その後、遠州灘や熊野灘などへ生息場所を広げていきます。食性は、仔魚後期までは主に動物プランクトン、稚魚期は小型甲殻類、未成魚期は各種幼魚や甲殻類、成魚期は甲殻類や魚類を好んで食べます。

## 漁業・資源動向

#### 【資源】



- 1 伊勢・三河湾系群の2025年度資源評価において、コホート解析による推定資源量は、2024年漁期(4月～翌年3月)が630トンで、過去2番目に低かった2020年漁期の170トンから3年連続で増加しました。
- 2 2024年漁期の親魚量はMSYを達成する目標レベル(84トン)を上回る95トンと推定されました。
- 3 なお、この系群は不定期に発生する卓越年級群\*により大きな資源変動を示すことが知られています。  
\* : 他の年に比べ特に発生量が多い年級群

《国の資源評価へのリンクはこちら》

簡易版

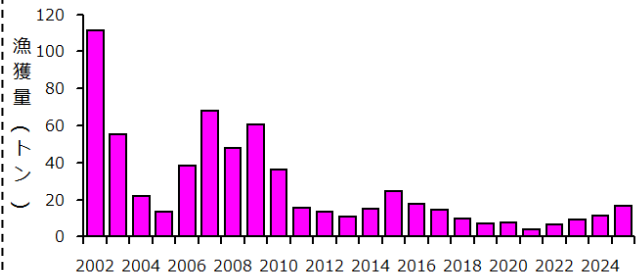
[https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries\\_resources/meeting/stock\\_assessment\\_meeting/2025/files/sa2025-sc11/k2025\\_74.pdf](https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries_resources/meeting/stock_assessment_meeting/2025/files/sa2025-sc11/k2025_74.pdf)

詳細版

[https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries\\_resources/meeting/stock\\_assessment\\_meeting/2025/files/sa2025-sc11/fra-sa2025-sc11-01.pdf](https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries_resources/meeting/stock_assessment_meeting/2025/files/sa2025-sc11/fra-sa2025-sc11-01.pdf)

#### 【漁業】

- 1 静岡県では、10月～翌年2月に、主に遠州灘で1歳魚以上がはえ縄で漁獲されます。
- 2 2002年漁期以降の県内漁獲量は、卓越年級群の発生による資源変動に伴い大きく変動し、約4～120トンで推移しています。近年は低迷していますが、2025年漁期は16.5トンと1993年以降で過去最低であった2021年漁期(3.8トン)から増加しています。



静岡県におけるトラフグ漁獲量の推移

#### 【種苗放流】

同一資源を利用する3県(静岡・愛知・三重)の漁業者により、種苗放流が行われています。本県による放流尾数は、年間3万尾前後(全長4～5cm)です。

#### 【資源管理】

資源保護のため、漁業者は小型魚(体重700g未満)は水揚げせず放流する自主管理に取り組んでいます。

担当者の一言:トラフグは、冬場に刺身や鍋物で賞味される高級魚です。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所浜名湖分場 053-592-0139